

個人山行 稲村ヶ岳

2017年2月22日(水) (晴れ後曇り) 岡本(単独)

今日は晴れ、久々に稲村ヶ岳に行ってみる気になった。朝ザックを持って階段を下りる時、突然のぎっくり腰が再発、迷ったが取りあえず行けるところまで行くことにする。幸い登山口の母公堂前に車が一台、ゆっくり登ることにする。午前9時、外は氷点下4度、出発時からアイゼンを付け、凍った腐った雪の上を歩く。

法力峠までは順調に進む。暫く行くと夏道が消え、急斜面はかなり危険な状態になっている。積雪量が結構多く、不安定な雪に足を取られる。踏み跡を慎重に追うが、急斜面では慎重に自分で足場を確保する。所々踏み跡が消える。山上辻の少し手前からかなり危険な状態になっており、やむなく急斜面を尾根まで登る。どうやら前の人も斜面を登ったようだが、当てにも出来ず自分で道を開く。稲村小屋に着いたがそこには今日の踏み跡が無かった。



(ルートは着いているが滑りやすい)



(稲村小屋には踏み跡なし)

ここまで約2時間半、腰痛もあるので山頂まで行くか悩んでいたところ、元気そうな中年男が現れた。挨拶をしてのんびり休む振りをする。と、相手は山頂を目指し進んでいく。20分程休み11時50分出発。大日岳までは夏道ルートに沿っていくが、この斜面も結構急で滑りやすく、ピッケルで確保しないと滑り落ちそうになる。大日岳トラバースの夏道は完全に塞がれているので、大日岳手前から少し沢側に下りトラバースする。腐った深い雪に足を取られ、一步一步ピッケルで確保しながら慎重に進む。先に行ってもらっているので少し楽をさせてもらうが、それでも相当負担が掛かかり、何度か足が攣りそうになる。

大日キレットから少し先で、夏ルート沿いは進めなくなり、急斜面をよじ登り尾根にでる。痩せ尾根の滑りやすいところなので慎重に進む。暫くすると、先の人が下山してくる。挨拶方々御礼を言う。休んでいた20分程楽をさせてもらった感じだ。

午後1時、山頂着。時には2時間~2時間半くらい掛かるのでまあまあスピードだ。少し曇ってきたので5分程景色を楽しみ下山する。気温が少し高目で、雪質はどんどん悪くなっていく。下りは雪の沈み込みが激しく、急斜面も多いので登り以上に慎重に下りる。突然大きく



(大日岳トラバース開始)



(稲村ヶ岳手前の尾根)

雪が沈み体勢を崩すが、ピッケルで何とか滑落を防ぐ。が、そのとき沈んだ足が攣る。変に動かすと雪に流されるので、体勢

を固定して悶絶の痛みが収まるのを待つ。足が上げられる程度まで雪を押さえ込むが、足を上げた途端、また足が攣る。その瞬間アイゼンがスパッツに引っかかるが、痛みで足を上げられずオーバースボンまで破ってしまう。何とか脱出するが、今度は違う方の足までつり出し、暫く休む。その後、何とか痛みを誤魔化し、漸く小屋までたどり着く。

小屋に戻った時、まだ先に行った人がいる。何となく足を痛めている感じで、同じように足が攣ったのかもしれない。話



(稲村ヶ岳山頂)

をすると、藤井寺在住とのことで、一頻りカクテルの宣伝をしておく。その人が下山した後、遅い昼食をとり、ミネラルと水分を十分補給し休む。

下山は、踏み跡の無い夏道ルートに行くことにした。直ぐに急斜面に入り、かなり急斜面が続く。中途半端な雪で、ピッケルも十分利かず、雪の比較的付いている場所を探しながら進む。不安定な急な下りも所々あり、十分時間を掛け慎重に進む。登りに尾根へ逃げた場所に来ると、そこから先は歩いたばかりの踏み跡がある。途中で先に行った人に追いつくが、何となく調子悪そうだ。法力峠まで行き、アイゼンとピッケルを仕舞い、少し休憩していても現れない。危ない場所は過ぎているので、そのまま下山する。母公堂4時過ぎ、たっぷり7時間余り、いつの間にかぎっくり腰も忘れる、少し充実感のある山行でした。



(弥山・八経ヶ岳、奥、仏生ヶ岳)



(崩落橋の上、急斜面の雪ルート)